

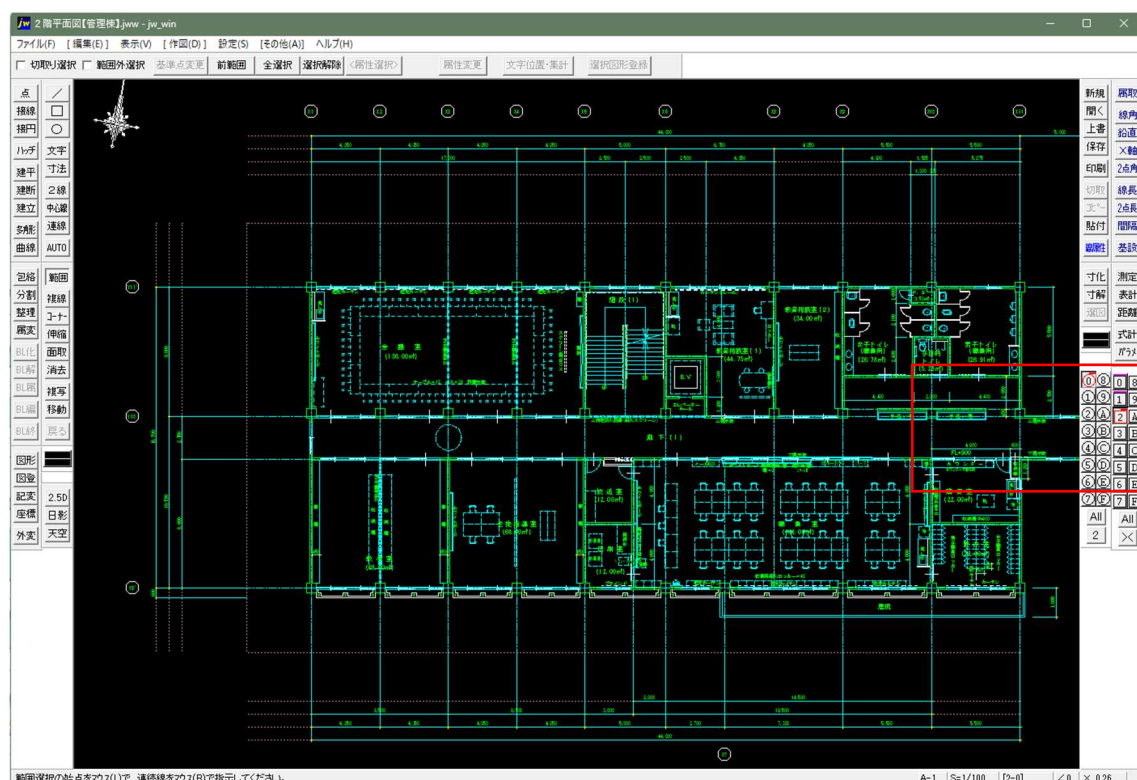
今度は『松助くん』で壁作図を描くにあたり、JWcad から取り込むことを説明します。  
 実は、「柱データ取り込み」をしているので、『松助くん』に JW データが保存されています。  
 『松助くん』壁の<<JWcad>>をクリックし

<柱で取り込んだ JW データ>クリック  
 とすると、簡単に貼り付けられます。

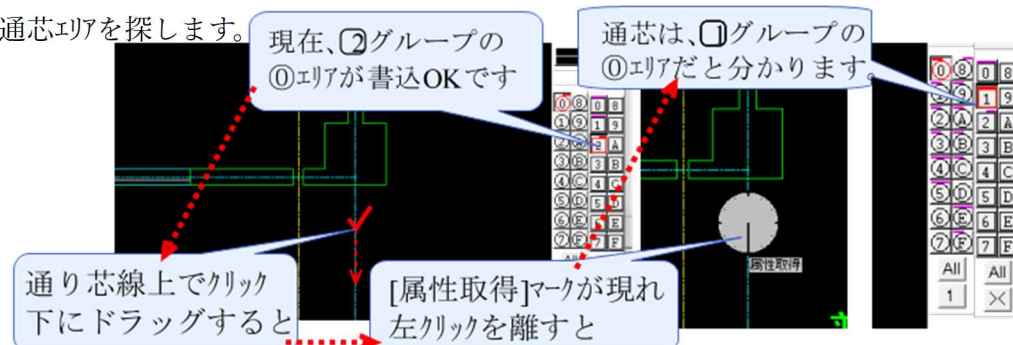


しかし、本説明書の要旨は  
 JWcad の「グループ・エリア」の扱いに慣れていただくことも目的ですから、復習の意味も兼ねて<新しく JWcad から取り込む>からご説明します。

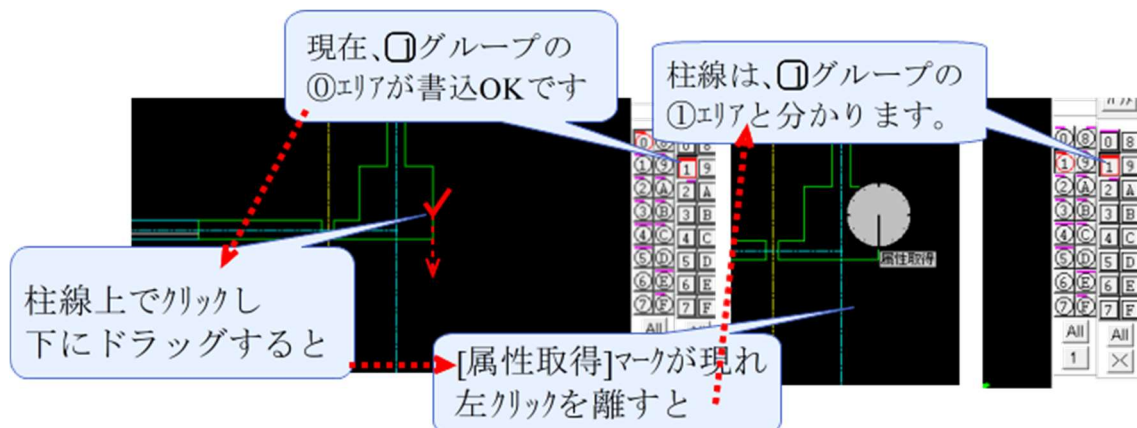
下画面は、グループ・エリアが全部表示されています。通り芯と、柱壁線のエリアを取り出します  
 JW 画面で、通り芯線と柱線とが描かれている一部を拡大します。



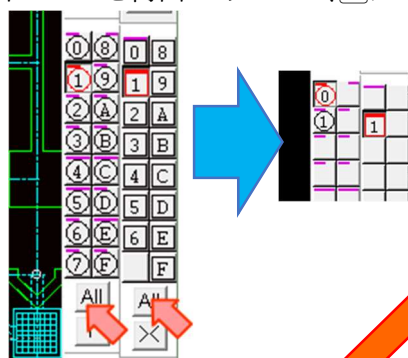
通芯エリアを探します。



JWcad 柱壁線のエリアを探ります。



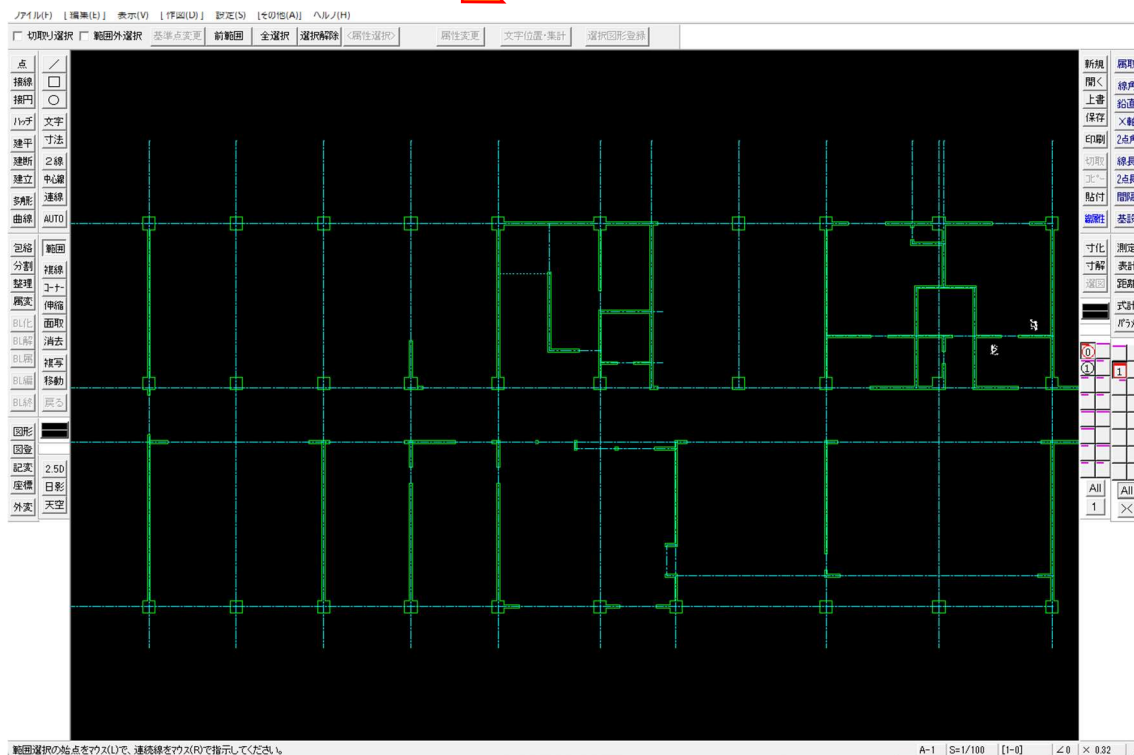
次に今度は左右の All を何回かクリックして、**①**グループの**①**エリアと**①**エリアだけ表示させます。



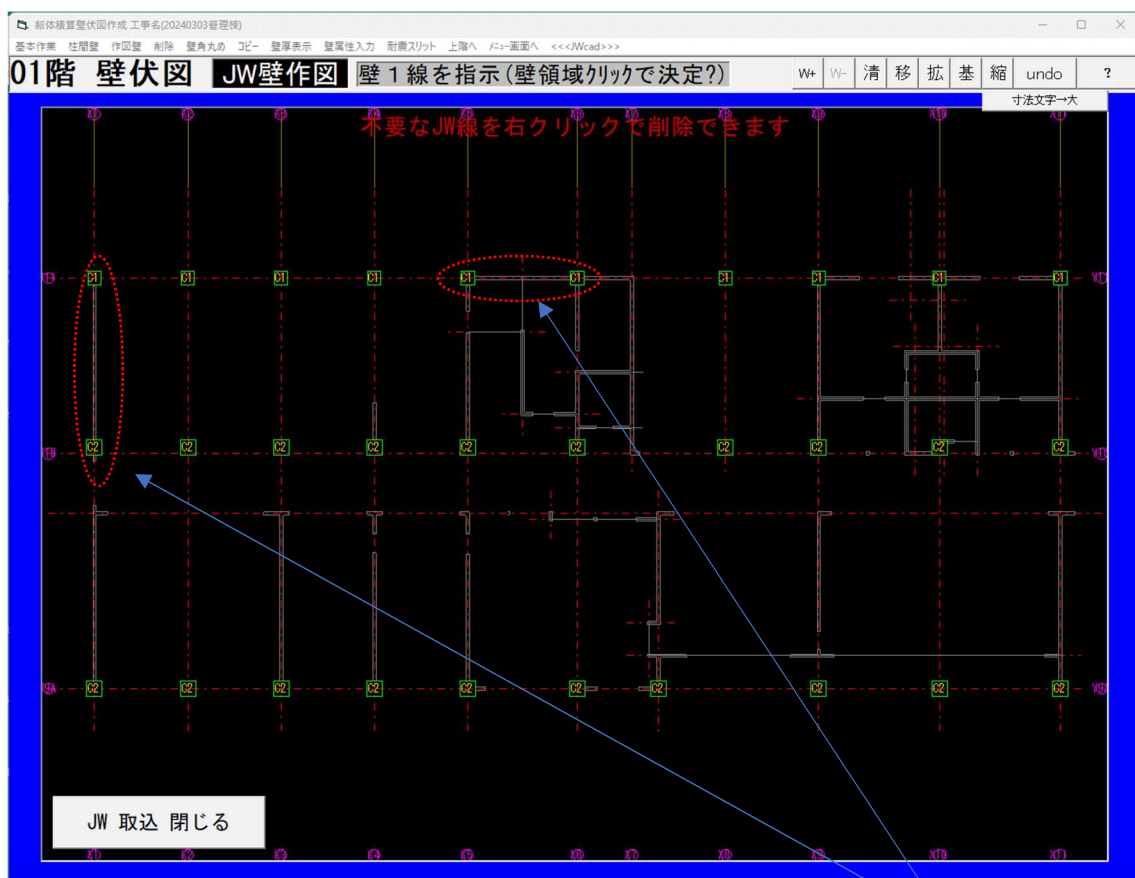
ここで、JWcad 画面のマウスカーソルを  
作図領域に動かすと JWcad 画面が  
下のように、  
通り芯と、柱壁線だけに  
なります。すっきりしました。

ここで、「範囲」で選択範囲を桃色にし、  
「基準点変更」→「コピー」でクリップボード

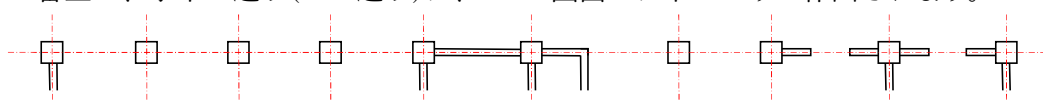
に格納します。下図は、ここまでの JWcad 画面です。



下は、JWcad データを<新しく JWcad から取り込む>で張り付けた『松助くん』画面です。



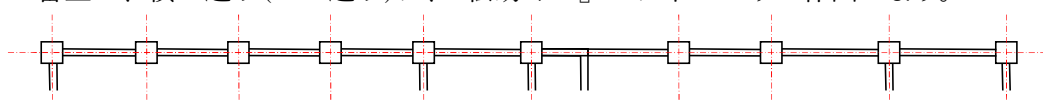
苦労して取り込んだのですが、この JW データが 1 クリックで使えるのはたった 2 か所です。しかも、これから説明する理由で、この 2 つも、ほとんど役に立たないことになります。一番上の、水平の通り(Y11 通り)は、CAD 画面では下のように作図されます。



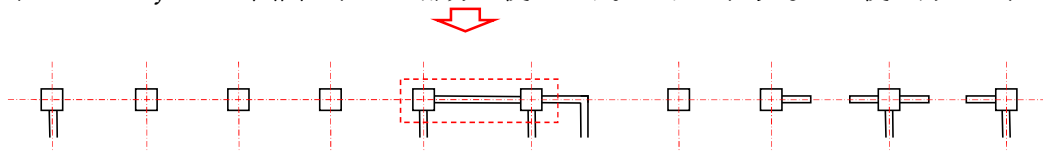
そもそも、CAD(製図支援)システムでは、線を描いているだけです。

積算の作図の場合、【積算する為】の壁→「開口部の無い壁」を作図し、「開口部」を後から挿入してコンクリート・型枠・鉄筋を【ぶち抜く】ように機能させます。

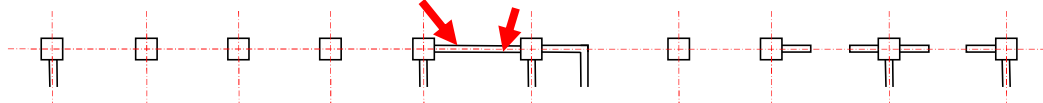
一番上の、横の通り(Y11 通り)は、『松助くん』では下のように作図します。



JW から取り込まなくても、「松助くん」の「作図壁」や「柱間壁」9 枚の壁が描けます。取り込んだ JWdata 画面の、この部分を使います。まずは、**すなお**な使い方から、です。

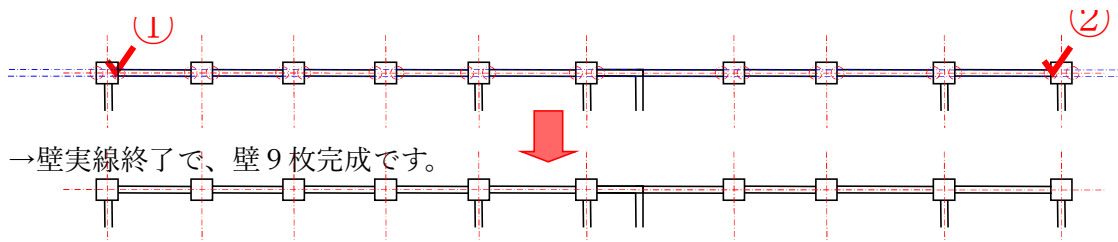


では、すなおな使い方です。壁線①壁線②をクリックし、仮線 2 本を引いた状態にし、



<<JW 取り込み閉じる>>をクリック、(「壁仮線終了」と同じです。)

始点①クリック、終点②クリック



では、今回プログラムを改造して「使いやすく」したつもり、の「素直でない」やり方です。下図は JWcad データを貼り付けたばかりの『松助くん』画面です。この部分を拡大して、



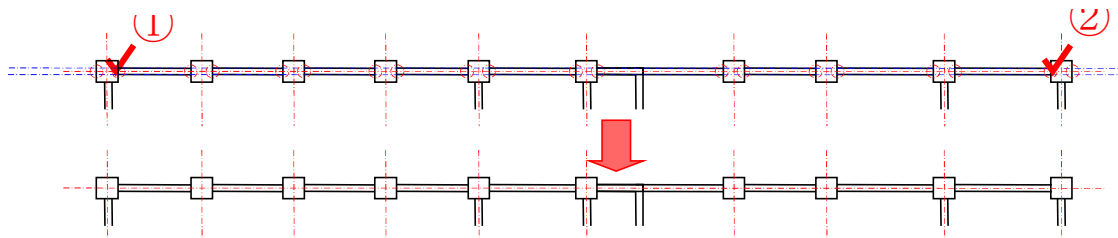
壁の領域内をクリックすると、一発で梁が決まります。ところが



画面の上には「ダメなら右クリック!」と表示されています。強制的に右クリックして、もう一度先ほどと同じ梁の領域内をクリックすると、横に長い、幅 150 の 2 本の仮線が引かれます。



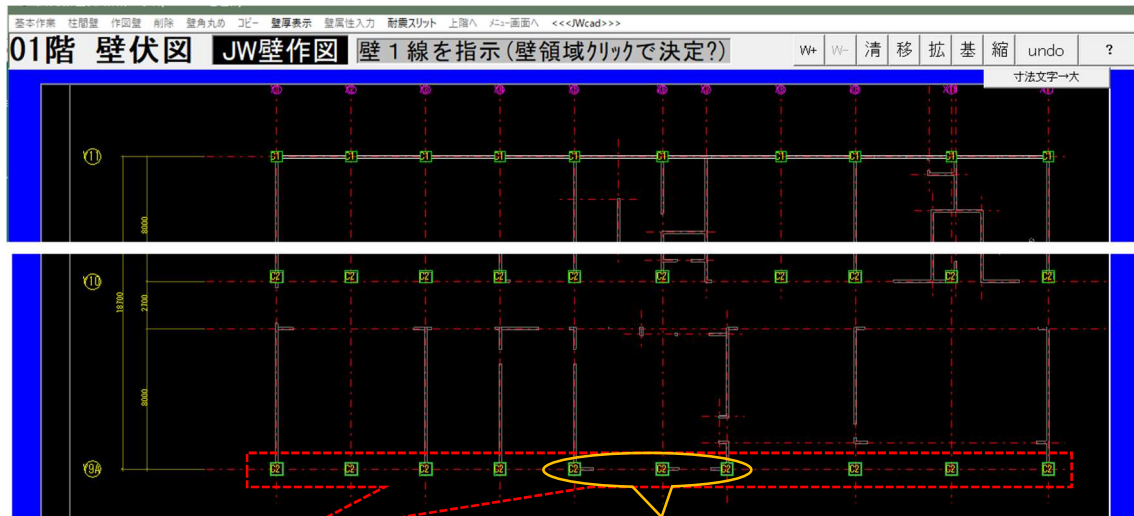
ここで画面上の「基」をクリックし、W+ W- 清 移 拡 基 縮 undo ? 全体表示して<<JW 閉じる>>で下のように、壁の始点・終点を指示で、9 枚の「開口部の無い壁」が作図できます。



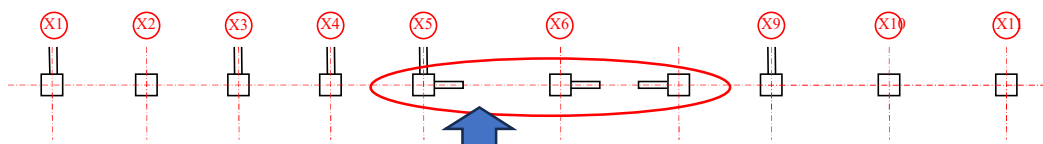
積算を目的とした壁作図では「開口部の無い壁」を意識して作図します。

今回のプログラム更改では「強制的に右クリックして、省エネで 2 本の仮線を引く」ことがご理解のポイントになります。

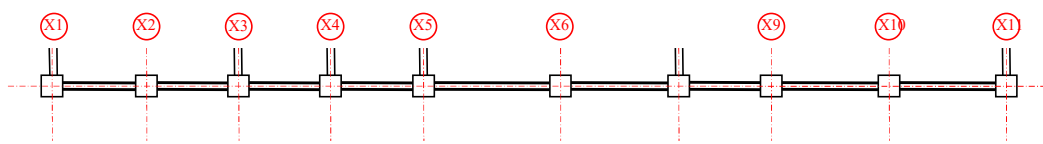
それでは、画面の下、水平方向(Y9A 通り)の壁を作図します。(JW データを取込んでいます)



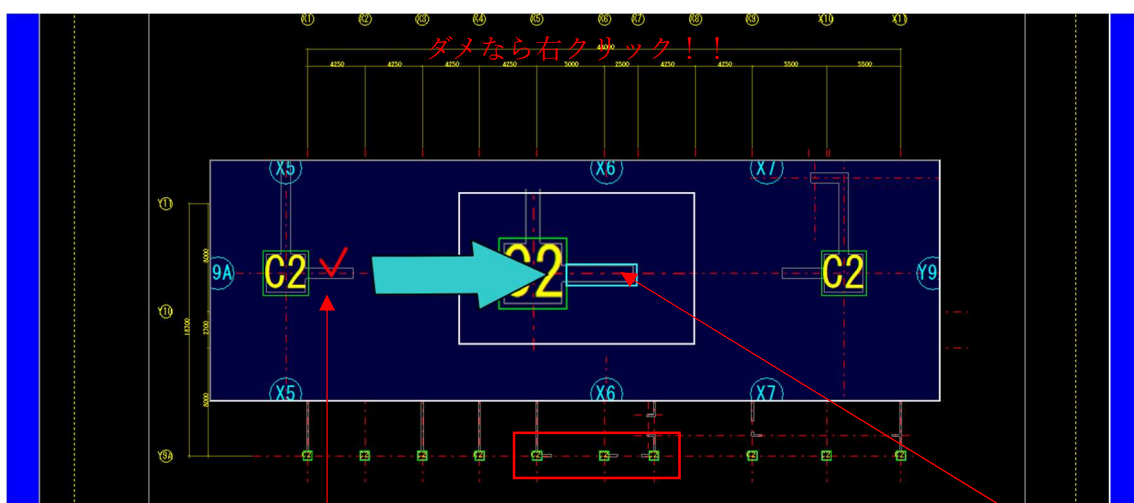
壁作図するのはこの通り(Y9A)ですが、JW では、ココにチョット描かれているだけです。分かりやすく描くと下のようです。



積算業務の立場では、このような図をいくら取り込んでもナ〜ンにもなりません。松助くんでは、下のように「開口部のない壁」として作図しなければなりません。



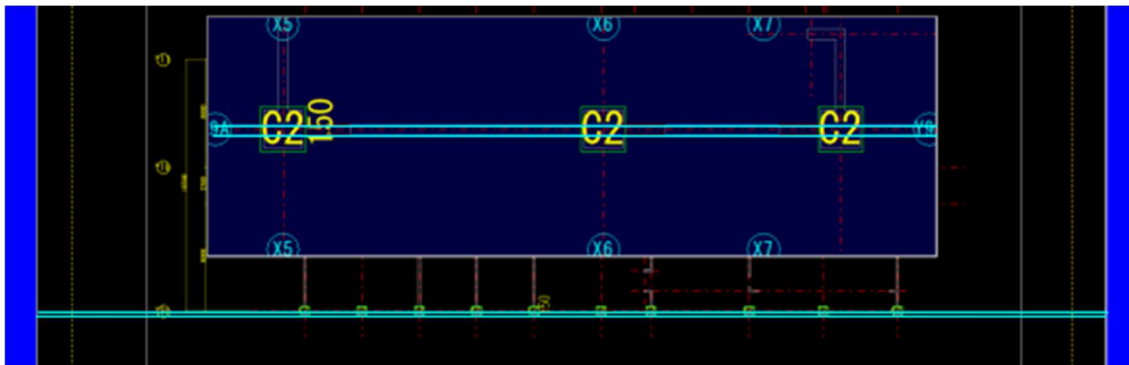
では、「松助くん」の「W+」機能で、(Y9A)通り(X5)～(X7)間を切り取って拡大表示します。



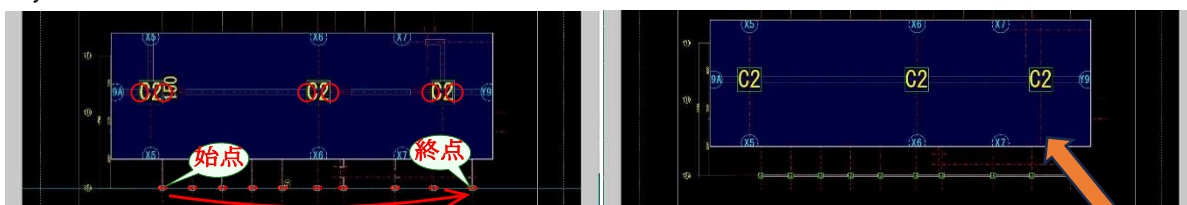
ここで、袖壁のような壁の領域をクリックします。すると、袖壁のような小さい壁が決まってしまう。積算業務上、このような決め方はダメです。右クリックでキャンセルします。



この、「右クリックでキャンセル」が、今回の「JW 取込みを使いやすく」したポイントです。  
「右クリックでキャンセル」すると今決まった壁が削除されます。もう一度同じ所をクリックすると  
下図のように2本の長い仮線が引かれます。



「JW 取込閉じる」→始点・終点をクリックして、壁実線終了で、9枚の壁が決まります。

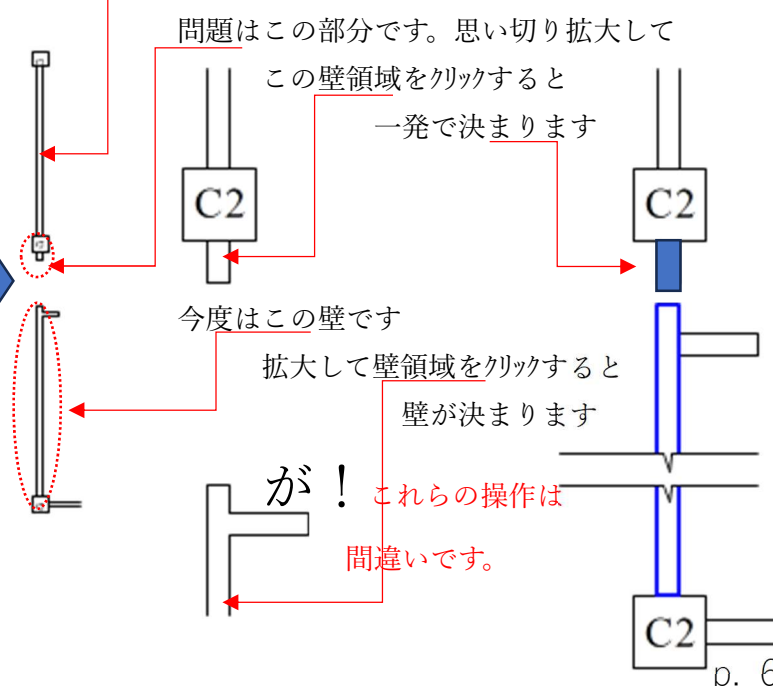


領域内をクリックするときは、拡大画面が操作しやすいですが、始点～終点を指示する時は  
「松助くん」は広域画面でも指示しやすいようにしています。「W-」で Window を消します

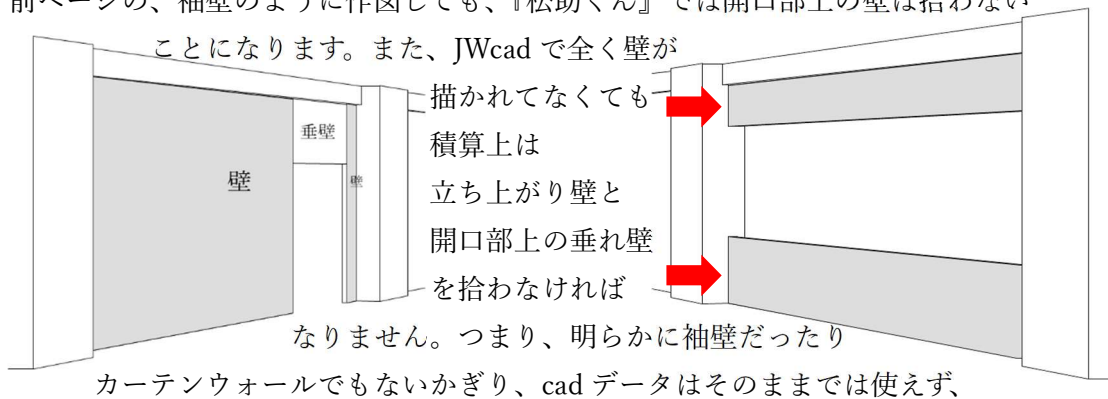
さらに続けます、<<Jwcad>>→<既に取り込だ現階壁>クリックで、下画面(X1)通りの壁です。



上の壁は、開口部の無い壁で、柱と柱で繋がっているの  
壁の中心をクリックするだけで一発で決まります。



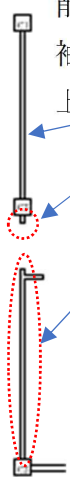
前ページの、袖壁のように作図しても、『松助くん』では開口部上の壁は拾わない  
ことになります。また、JWcad で全く壁が



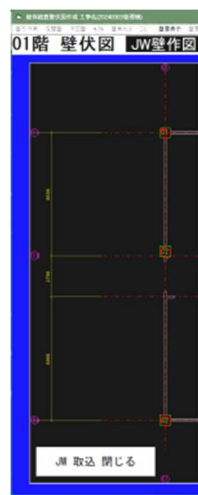
多くの場合、開口部の無い壁として作図する必要があります。

前ページのいけない操作で作図した袖壁は「JW 取込閉じる」クリックで『松助くん』画面で  
削除します。

削除するのは下の2つの  
袖壁ですが、  
上の壁も消しましょう。

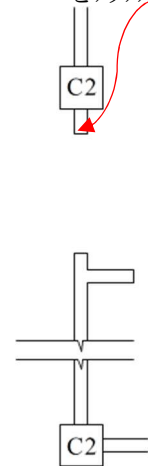


また<<JWcad>>クリックして、<既に取り込んだ JW データ>クリックです



拡大して

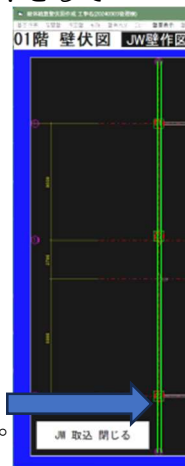
ココをクリックして、うまくいって、ダメ！として



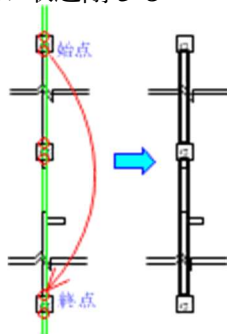
右クリックで  
キャンセルして  
もう一度  
同じ位置を  
クリックすると



長い2本の  
仮線が  
引かれます。



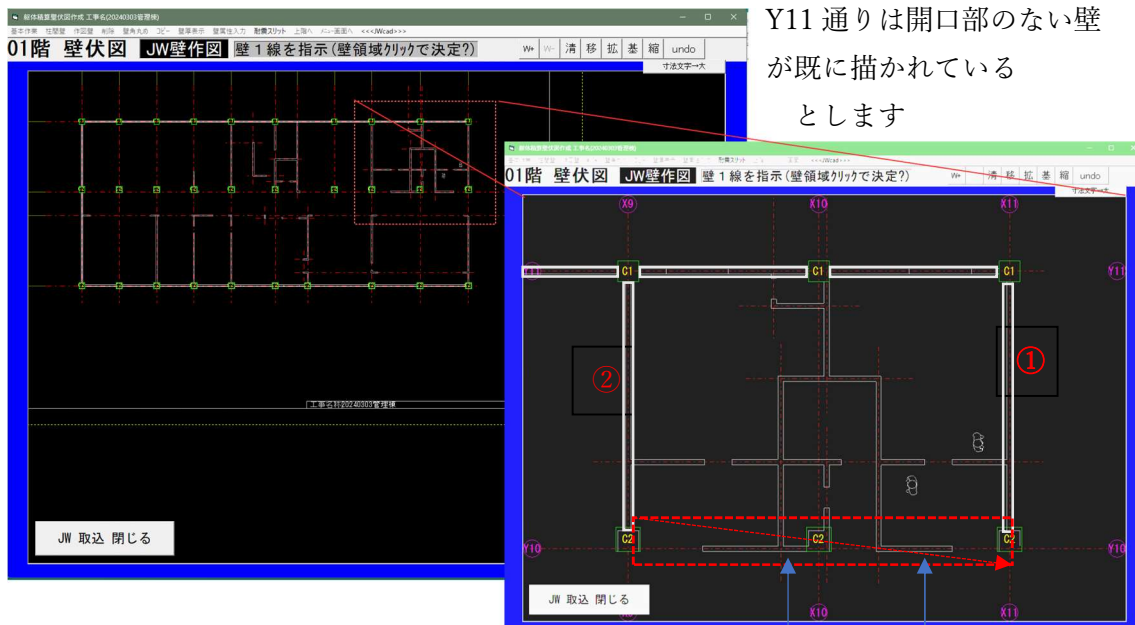
<<JW 取込閉じる>>→始点・終点を指示して  
2つの開口部のない壁  
が決まります。



今回、JWC 壁の線から、積算用の  
「開口部のない壁」作図のために  
クリック→キャンセル→再クリック→始・終点  
というプログラムにしました。  
これまで通り、JW cad データの壁線  
2本をクリックする方法もできます。

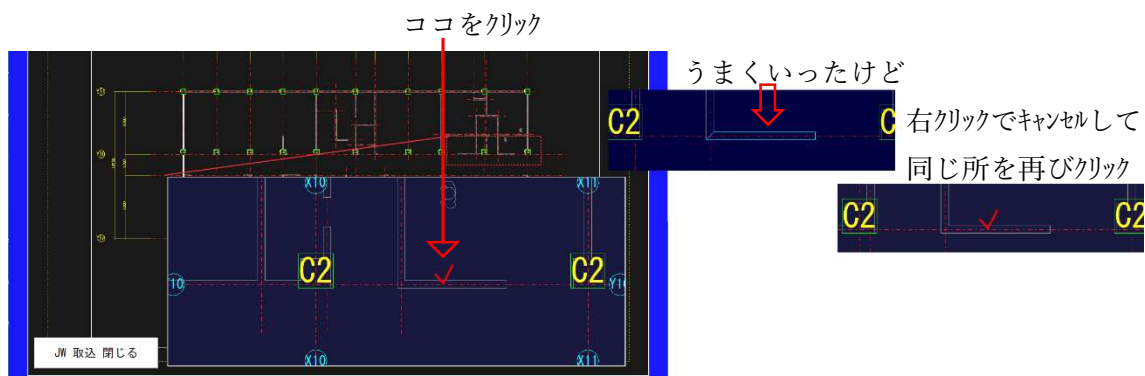
それでは、次に JW 取込み画面の右上 X9~X11、Y10~Y11 の範囲について説明します。

『松助くん』の<<JWcad>>→<既に取り込んだ>で右上部を拡大してあります。

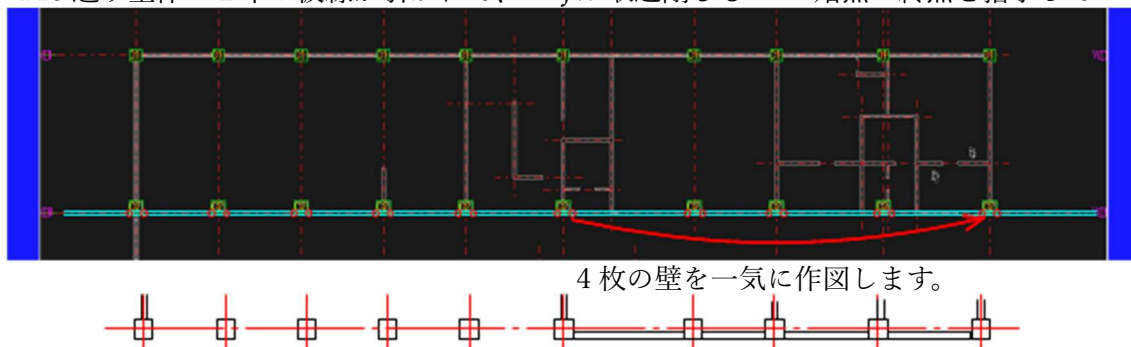


① と②の壁は「柱に挟まれた開口部の無い壁」領域内をクリックするだけで決まります。

壁、梁、布基礎など、繋がる部材の作図では、「作図のあとさき」が大事です。上図では次に、Y10 通りの壁を作図します。袖壁が描かれていますが、開口部ナシの壁とします。[基]で全体画面にし、[W+]で切り取り、大きく拡大して表示します。

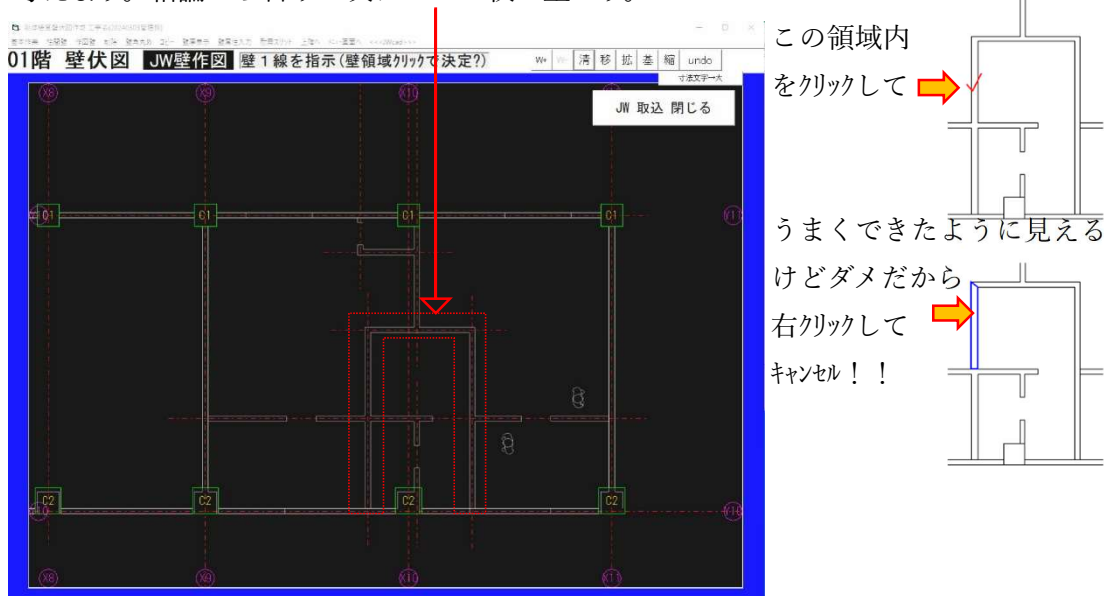


Y10 通り全体に 2 本の仮線が引かれて、<<JW 取込閉じる>>→始点・終点を指示して

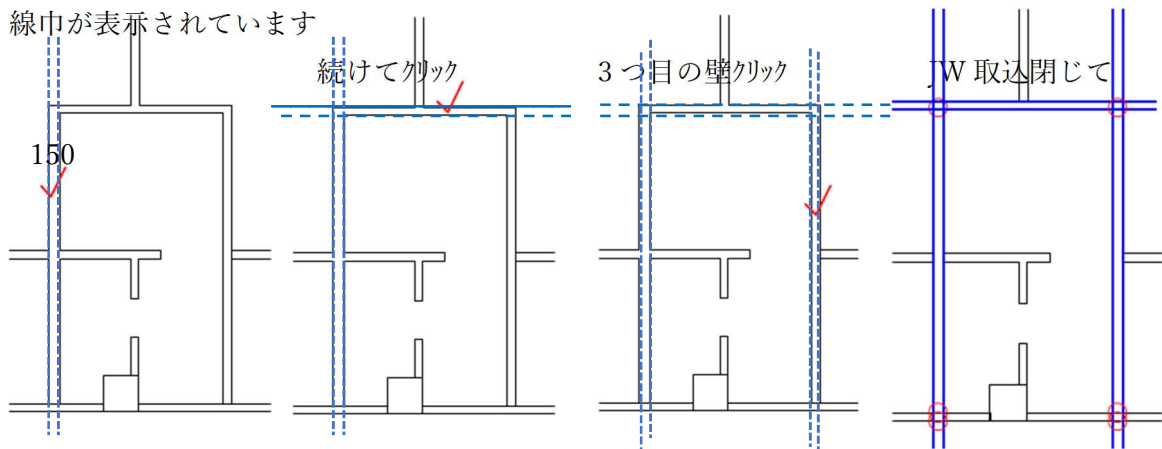




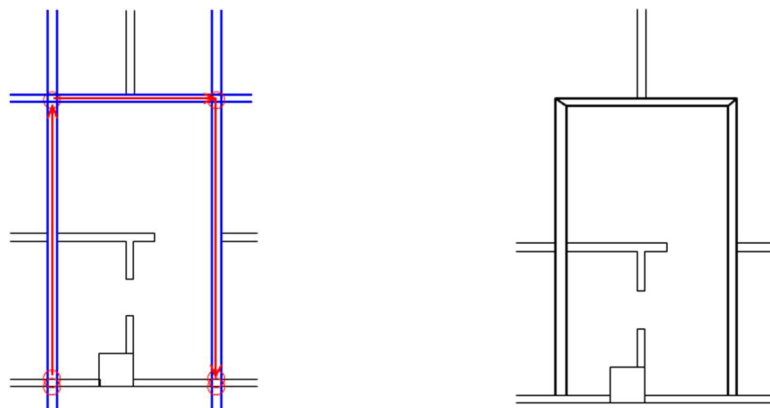
さらに、<<JWcad>>クリック→<既に取り込んだ>で右上部を拡大して、壁作図の「順番」を考えます。結論から言うと次はこの3枚の壁です。



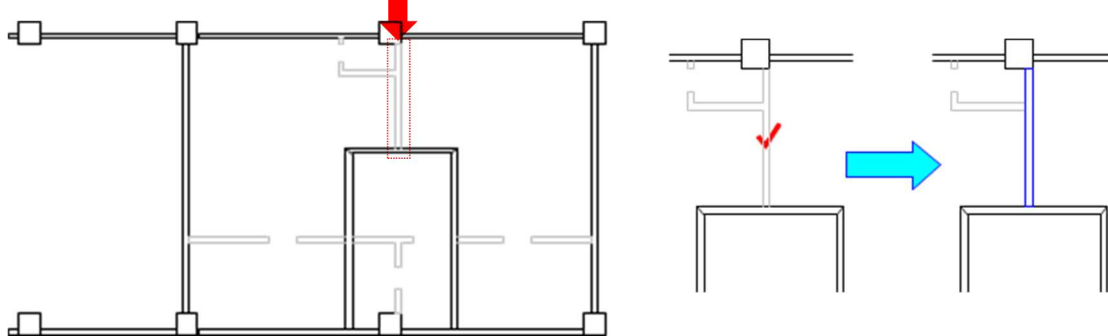
もう一度同じ領域をクリック  
2本の壁仮線が引かれます  
線巾が表示されています



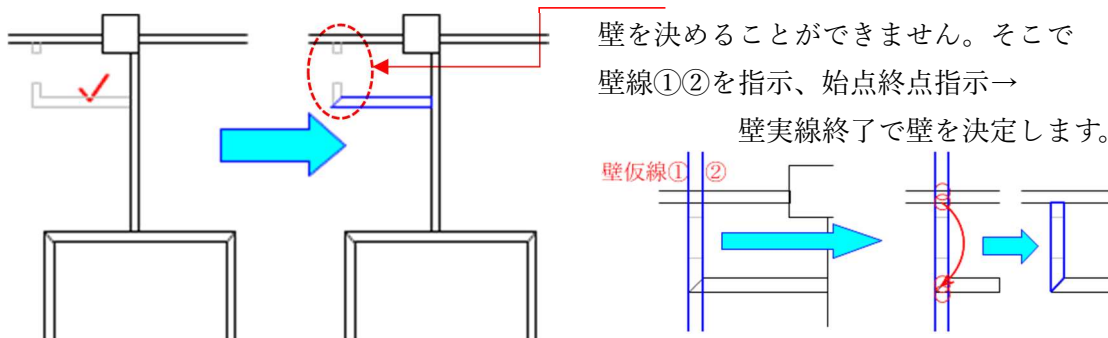
3つ壁の始点・終点を指示、「壁実線終了」で壁が描けました。



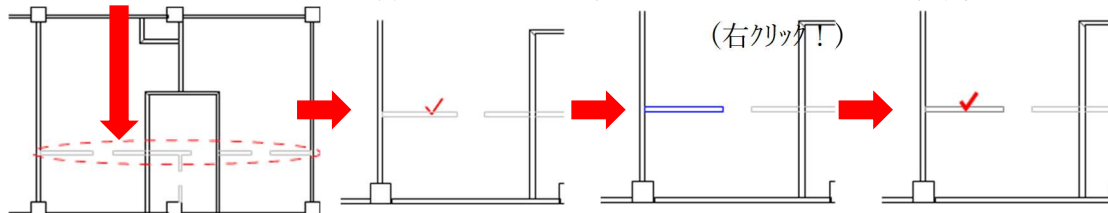
次に作図すべき壁はココです。ただ、この壁は、領域クリックだけで決まります。



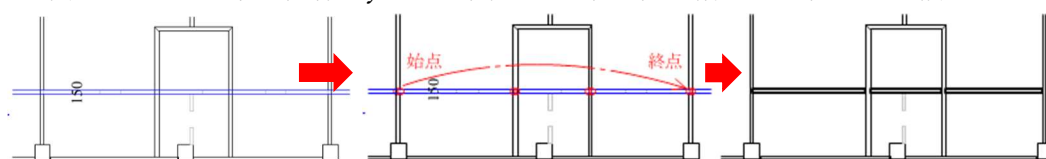
次はココです。これも一発で決まります。問題はココです。実は壁領域が小さすぎて



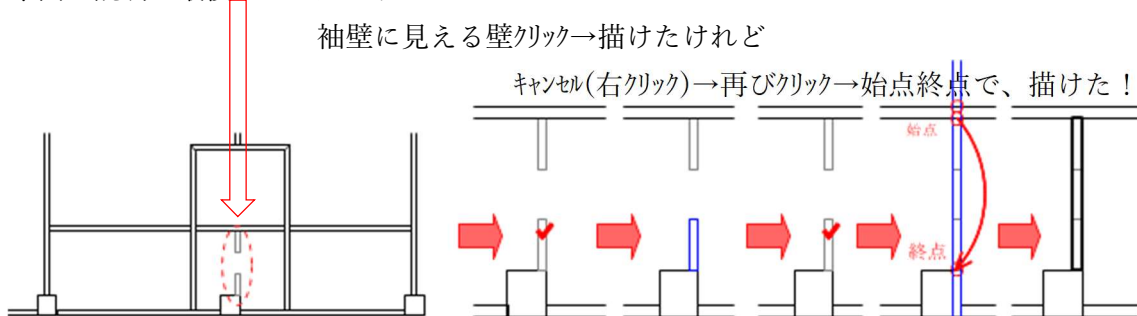
次は、この壁です。



壁厚表示され、2本の仮線→JW 取込閉じる。始点終点指示で3枚の壁が描けました。



今回の説明の最後はこの壁です



これで、壁作図の説明を終わります。